

## 「選挙の時だけ主権者」ではなく、365日ずっと主権者であるために

### 私たちに「拒否権」「発議権」「決定権」を！

どこか特定の政党を支持している人であっても、支持する政党はないという人であっても、私たちは皆この国の主権者なのだから、政治参加・行政監視を怠ってはなりません。ただし、参加・監視の手立ては「選挙権の行使」だけでは不十分です。

「選挙を棄権してはダメ。それは民主主義の否定です。たとえ投票したい党、候補者がいなくても必ず投票に行きましょう」

「民主主義というのは、選挙で選ばれた議員にすべてを託す間接民主制であり、あなたが政治参加・行政監視をしたいのなら、選挙制度を通してやりなさい。政府や国会に不満があるなら次の選挙で正せばいい」

——そんなふうにする人がけっこういますよね。

でも、どうでしょう。民主主義は選挙された議員（代理人）が私たち主権者に代わって事を決める「間接民主制」だけですか？ 私たち自身で事を決める（より原理的な）「直接民主制」もありますよね。

それに、「次の選挙で正せばいい」って、政府・国会の〈質〉は選挙をやるたびに向上していますか？

主権者である国民の多くが疑問を抱いているのに「国葬」を強行したり、（旧）統一教会との密な関係を暴かれても「記憶にない」と逃げたり、「原発の再稼働・新設」や「防衛費の増額」を国会での審議や国民的議論を行うことなく一方的に宣言したりと、政府や国会の〈質〉は向上するどころか劣化しつつあります。

そんな政府や国会のありようをデモや集会で非難し、SNSでなじったところで、彼らはその抗議の声を汲みはしません。そして、声をあげた人々は「ふざけるな」と怒りはするものの、やがて「仕方がない」とあきらめ、政治参加・行政監視に背を向ける。私たちは、新憲法制定から70数年、そういった営みを繰り返してきました。

国会の多数派議員がすべてを請け負い、事を決する日本の国政。国民主権とは名ばかりで、実際は事実上の議会主権であり、私たちは「選挙の時だけ主権者」に陥っています。そうした政治状況を変えるためには、観客席に追いやられている私たちが、「365日ずっと主権者」として実効力をもち政治にかかわる制度を整える必要があります。

その制度というのは、議員（代理人）に託すことなく私たち自身が直接「拒否権」「発議権」「決定権」を行使できる**イニシアティブ制度**です。これを導入することによって、「自分たちで決めて自分たちで責任を取る」という私たちの主権者度は一気に高まるし、国会多数派によるやりたい放題の政治を阻むことができます。

**INIT**（国民発議プロジェクト）は、イニシアティブ制度の導入を実現させ活用を促すために行動する市民グループです。

このウェブサイト上で、できるだけわかりやすく解説・紹介しますので、ぜひいろいろなページを開いてみてください。

